

パネリスト

岡ノ谷 一夫

鳥の歌、ヒトの言語、げっ歯類の鳴き声など動物のコミュニケーション行動と情動・感情との関係とその仕組みを、生物学的・心理学的に研究。

また作曲家の古川聖氏（東京芸大）との共同研究で、脳波に想起された音のイメージをデータとして生成する音楽および映像美術という芸術表現にも取り組んでいる。

基本的立場は「動物のコミュニケーション行動」。すなわち、コミュニケーションは表現と受容であり、そのための脳機能と芸術に通じる表現の原型は動物一般にある。



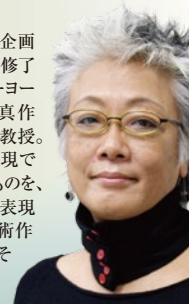
布施 英利

美術解剖学・批評家。東京芸大美術学部芸術学科・同大学院修了後、東大医学部解剖学教室（養老孟司教授）で人体解剖学研究に従事。人間、人体、美術、建築、自然など、その観察対象は極めて多岐にわたる。1988年に最初の著書「脳の中の美術館」で「芸術は脳の産物である」として科学と芸術を論じた。20年後に「体の中の美術館(2008)」を著し、そこでは「芸術は、脳の産物だが、同時に体の産物でもある。目から入って脳へ行き、さらにその奥深く、先の先にある体に到達しなければいけない。そんな芸術論を書きたいと思った。」という。表現は平明で、しかしハッとさせる「人間と芸術」についての様々の気づきをもたらしてくれる。



福 のり子

アートコミュニケーションの実践的教育および展覧会企画構成。米国コロンビア大学で美術教育学修士課程を修了後、ニューヨーク近代美術（MoMA）で研修。ニューヨークで independent curator として様々な美術・写真作品展の展覧会を手がける。2004年より京都造形芸大教授。芸術は人間の表現の極致だが、言語を超越した表現でもある。芸術家の感性が表現した作品に込められたものを、鑑賞者がどのように受容しているのかをアクティブに表現する過程で理解し合うことを重視する。すなわち美術作品を介するコミュニケーションとしての美術鑑賞と、その人材育成について話していただく。



人間と芸術

主催

第92回 日本生理学会
第120回 日本解剖学会

市民公開講座

<http://psj92-jaa120.umin.jp/>

日時

2015年 3月20日(日)

午後6:00～午後8:00
(開場 午後5:30)

会場

神戸国際会議場
(神戸ポートアイランド)

お問い合わせ

大阪大学大学院 医学系研究科 生理学講座 統合生理学教室
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-2
E-mail: psj92@phys2.med.osaka-u.ac.jp

